
反吐とノイズと男と女

ヨーキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

反吐とノイズと男と女

【Zコード】

Z0584B

【作者名】

ヨーキ

【あらすじ】

ダメなのは自分である。反吐だって自分のモノである。とにかく気に入らなくてfuck off!パンクであろうとしてダメになる男。

(前書き)

ダメ人間の細切れエピソードは私のライフワークともいえます。とにかく、イメージだけで書ききりました。

また反吐だ。今日つてか、こことじゅうと反吐だ。

食道がヒリヒリ、鼻腔に酸っぱい匂いがすっと蟻ついて、ふんふん鼻を鳴らせば固体液体入り交じったカスが噴き出してくるし、ググググガツと吸い込めば固体液体入り交じったカスが喉に下りてくる。酸味の。

ライヴやつて打ち上げて帰宅。

この全く進歩的、あるいは革新的といつコトバから最もかけ離れているのではないか、この国の中で？と思われて仕方がないド田舎の閑村。あるのは閉鎖。あるのは閉塞。

どうせ聴くヤツなんかいない、閉塞してんだから。それなのに農家が税金対策で開いた生演奏奏可能な一杯飲み屋の、舞台すらなくて、だから冷たいコンクリの床に這い蹲るようにして、反吐を吐き散らしつつ、吐き散らされる反吐のことさえ気にかけない閉塞民を前にドラム缶をひっぱたき、ストリングスの欠損したエレキギターを踏みつけてグリグリやつて音を出し、額にマイクを押し付けて、ゴチゴチぶつけて流血、顔面を鮮血に染め、ひたすらに反吐声で喚き散らして、挙げ句の果てにチケットが売れなかつたからと言つて閉鎖農民にショバ代2万円をふんだくられ、まあいつもの事だと思いながらもメンバー全員荒れに荒れて閉塞酒場で合成アルコールを燐もつけずにガバ飲み。ぐらぐら帰宅した途端に、部屋に充满する糞尿の匂い。

だからまた反吐。

女。糞尿垂れ流して失神痙攣。股間で真っ黒いヴァイブレーターが淫口を支点にぐねんぐねんと蠢いて。後ろ手に手錠。足を閉じられないように『デッキブラシの柄に開脚したまま固定されて。猿轡して。ま、俺がやつたんだけどね。20時間くらい前から放置していたんだけどね。

床が臭くて、汚物でいっぱい。

指先で触れたら生暖かくて、嗅いでみたら、また反吐。打ち上げで喰った臓物料理がもつたないじゃねえかって、女の腹を蹴飛ばすと、ぐぐうと唸つて目を覚ました。俺は女の髪を撫でて子守歌を唄う。

立ち上がりゆらゆらと揺れながら、痙攣する女の性器を眺めている。糞まみれ。バイブレーター。

脳がズキンと脈打つて、目の前が真っ赤になつて、ヴァイブレーターを引き抜いた俺は、女に覆い被さつて輝ける糞尿の海原で合体。滴。

音がする。まだ違う。今日の喚き声ではまだ遠い。もっともっと反吐を吐かなければならん。女の顔を殴るとボキッ！ 或いはドガツ！ という音がする。打楽器のよう。

俺の反吐が女の顔に。

(ア)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0584b/>

反吐とノイズと男と女

2010年12月10日23時39分発行